



Title	「支那改造論」
Author(s)	研究館編纂室
Citation	商業と経済, 7(1), pp.209-210; 1926
Issue Date	1926-11-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/26857">http://hdl.handle.net/10069/26857</a>
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-22T09:28:28Z

那を識る事なくんば今日の支那に徹底の理解を期すること能はざるは敢て多言を俟たざる所(中略)彼の革命を行ふて民國を建てたる先覺は果して其の國家社會の基礎の遠く王道に淵源することを徹識したりしか、又彼の法制經濟を更革して時勢を匡救せんと企つるもの其の社會民人の生活に彼國古有の傳統の深く存在するものあることを熟察しつゝありや……多くは濫りに外を學び新を追ふて其の淵源傳統を反省内察せざる弊に墮するに似たり。吾が斯卷遠く二三千年前を論じて敢て現代支那に及ぶ無しと雖も、讀者幸に此意を了して之を看るあらば、亦以て本書の現下東亞の世務に幾干の裨補する無きにあるざるを知

經濟學博士 田崎仁義氏著

## 「支那改造」

## 論

研究館編纂室

本書は方今諸家の支那問題に關する諸説が「多く眼前の起伏轉變を横論縦議するに是れ

る可し』と。以て本書の廣汎なる内容と其の帶ぶる使命とを知る可し、又本書卷末に精密なる索引を附し以て讀者に便す。(京都内外出版株式會社發行、定價金七圓五拾錢)

### 目次大略

#### 第一部 思想

第一編 洪範に現れたる天下觀念

#### 第二部 組織及制度

第二編 王道天下の社會組織の基礎たる氏及姓の研究

第三編 王道天下の中軸たる君位の研究

第四編 王道天下の政治經濟及び社會の基礎に大關係を有する「禹貢」の研究

第五編 王道天下と官制の變遷

急にして、徐ろに其の淵源を古今の史的變遷に採り、其の歸趨を、發展進化の常則に察し

て是が根本的解決の方策を樹立せんとする者」あらざるを遺憾とし之を著者の専門研究の分野たる經濟史並に社會史上より立體的に觀察し來りて、以て其の根本方策として、支那は列國分立とす可きか、超國家的大統一體とす可きかを論究し、遂に支那は之を數個の近世國家に分立せしめ國民經濟組織の形成を促進し須らく經濟革命を實現せしむ可きを論斷し、之に配するに、『日支共榮と文化方策』と題する一編を附加せられたり。方今支那を論議する者の一讀を要す可き好著なり。(東京

神田同文館發行、定價金貳圓)

支那改造論 目次大要

一、社會的史觀より支那改造の基礎を論ず

二、支那は列國分立か、超國家的大統一體乎

三、支那の經濟革命と支那列國の分立  
日支共榮と文化方策

一、日支共榮と文化方策

二、漢字漢文及び支那語と日本帝國の文化的大使命

鳥居助三氏著

「英文商業通信」

研究館編纂室

本校教授鳥居氏の著にして内容要目左の如し。

- 1 Introductory
- 2 The Mechanics of the Business Letter
- 3 Letters of Application
- 4 Letters of Reference, Recommendation, & Introduction
- 5 Letters of Order and Acknowledgment
- 6 Letters of Claim and Adjustment
- 7 Letters of Inquiry, and Information